

問題・目的分析例題

配布資料



評価大学では、昨今の文教政策や大学界の動向をふまえ、国際的水準の研究を実現するために外部資金の獲得を図ろうと考えている。

そのために科学研究費補助金への応募を奨励しているものの、応募実績(何らかの外部資金を得ていない教員のうち科研費応募した者の割合:60%[H23])、採択実績(15%[H23])ともあまり芳しくない。

何人かの教員に意見を聞いてみたが、文系については、「研究費よりも時間が欲しい」という趣旨の意見が多く、科研費応募にあまり意欲的ではなかった。理系の教員については、研究費の必要性を感じており、科研費に応募出しているのだが、なかなか採択されないという。

3年に1回実施している教員評価についてみると、業績書に、外部資金の獲得結果については記入する欄があるが、科研費や外部資金への応募状況について、記す欄がなく、また、応募しなくてもペナルティが課せられるわけでもない。

一方で、評価大学がめざす研究の国際的水準とは何か、という議論が進んでおらず、教員の理解もまちまちであり、評価基準や評価方法も明確に定まっていない。

評価大学では、国際的水準の研究の推進に向けて、どのような方策をとるべきか、方向性がみえず、当惑している。